

音読が苦手な児童の指導

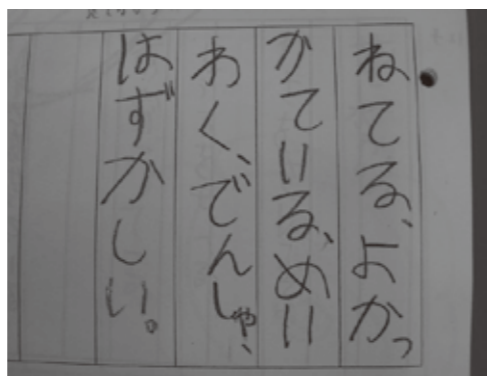
アセスメントの実施



【指導開始時期の「読み」の様子(通級指導学級の様子から)】

- 音読では、語尾や文末の読み間違いがある。
- 読み方がたどたどしい。
- どこを区切って読めばよいか分からない。

状況絵の作文⇒特殊音節で、表記の誤りがある。



【MIM-PMの結果から】

- 特殊音節の読み書きや単語の意味理解が学年相当の到達程度に達していないことが分かりました。

指導目標と指導の手だて(個別指導計画の作成)

指導目標

特殊音節が正確に読める。読む文字に注意を向けることができる。

指導の手だて

①MIM-PM

毎時間習慣的に実施し読む力の向上を図る。

②かるたづくり

特殊音節を含んだ単語のかるたを作って活動する。

③「おわり」が大事

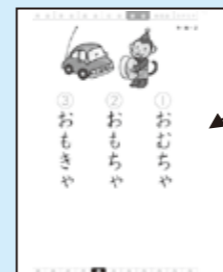
文末に注意して読むことを通して読む力の向上を図る。

④文の区切りを意識して読む

長文が書かれた長いテープをハサミで切ることで、文の区切りを意識して流暢に音読する力を育てる。

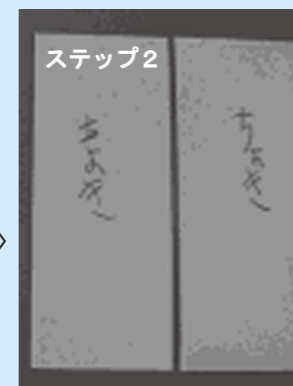
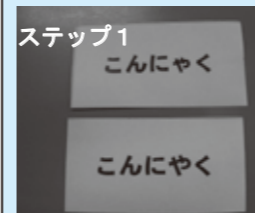
◆対象児童が楽しみながら学習に取り組めるよう配慮しました。

指導内容・方法



①MIMの「ことば絵カード」

フラッシュカード方式で活用しました。



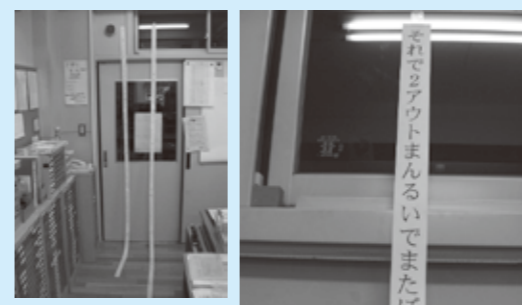
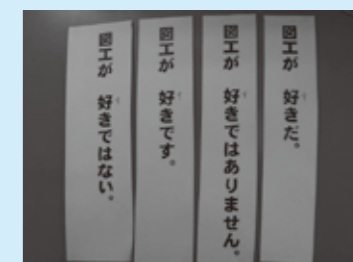
②かるたづくり

「かるた」のねらいは特殊音節の習得と、読む文字に注意を向けることです。まずはステップ1として、児童が読み手の言葉をよく聞いて、正しいものを選ぶようにしました。

ステップ2では、正しい表記と誤表記の札を混ぜて作ることで、注意して文字を読む意識をもたせるようにしました。

③「おわり」が大事

文末(「おわり」)が異なる文章を4つ用意し、それらのうちのひとつを教師が読み、読んだ文と同じものを児童が選ぶ学習です。「文末が変わると、文章の意味も変わってしまう」という指導を行った後に取り組みすることで、文末を正しく読む大切さを意識させることをねらいました。



④文の区切りを意識して読む

長文が書かれた長いテープをハサミで切ることで、文の区切りを意識して音読することをねらいました。区切りを意識することで作文するときにも句点をどこに打てばよいか分かるようになりました。

指導の成果

- ◆教師の音読を聞く際に、教師が読んでいる部分を自然と指でたどいながら聞くようになりました。
- ◆音読の際に注目する場所を「おわり」などと、具体的に示したことで、自分で文章を読むときに意識が向けられるようになってきました。

★自己評価の一環として、対象児童の音読をボイスレコーダー等で録音して振り返りを行いました。上手に読めるようになったことが自分で確認でき、意欲が向上しました。

